

かわさき区の宝物シート

| | | | | |
|--|--|-------------------------------------|----|--|
| 宝物No. | しおがまじんじや 塩釜神社 | | |   |
| 16-2 | | | | |
| エリア | 大師地区 塩浜・夜光 | シーズン 日時 | 通年 | |
| 目的 | <input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他 | | | |
| 宝物定義 | <input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物 | | | |
| 所在地 | 川崎区塩浜2-7-6 | | |  |
| 問い合わせ | 若宮八幡宮 | | | |
| TEL | 044-222-3206 | | | |
| FAX | 044-233-3060 | | | |
| E-mail | | | | |
| URL | | | | |
| 交通 | JR川崎駅よりバス「塩浜営業所」下車徒歩2分 | | | |
| 基礎情報 | | | | |
| <p>■御祭神は塩土老翁（シオツチノオジ）の神。安産の神として名高いが、この地域では寛文11年(1671)に始まった製塩業の守護神として信仰を集めた。創建は不明だが、神明神社と同時期とみられている。</p> | | | | |
| 由来・エピソード | | | | |
| <p>■地名の「塩浜」はその名の通り、製塩業が盛んであったことを示している。大師河原塩浜は江戸内湾では今の千葉県市川市行徳に次ぐ塩田地帯であったという。川崎における製塩業は江戸幕府の政策として行われ、最盛期には33軒の釜家を数えた。</p> <p>■大師河原など江戸湾で製産された塩は「地廻塩」と呼ばれ江戸や生産地の近郊などで消費されたが、やがて瀬戸内海で製産される「下り塩」が江戸市中では主流となるに至った。また塩浜の行商人は直接船で江戸まで塩を運び売っていたが、享保9年(1724)に幕府は地廻塩問屋の間屋株仲間を公認し、塩浜からの直売を禁止し問屋の保護を図ったことなどから地廻塩は苦境に立っていくことになる。塩釜神社の狛犬は台座に刻まれている江戸の地廻塩問屋連によって奉納されたものである。</p> <p>■明治38年(1905)の塩専売法、同43年(1910)の製塩地整理法によって大師河原の塩田は不良塩田として整理されることになったが、再生塩業のみは存続を許可され昭和30年代まで続けられた。</p> <p>■安産の神様として近所の人たちはお参りをしている。</p> | | | | |
| 補足・その他 | | 関連シート | | |
| | | (10-3)若宮八幡宮・若宮郷土資料室 (16-1)塩浜神明神社 | | |